

## 名誉会員

## 森 博さんのご逝去を悼む

本学会名誉会員で日本工学アカデミー会員の森 博さんは、昨年7月より体調を崩して入院治療中のところ、本年2月3日に心不全のために逝去された。享年73歳であった。

森さんは、神奈川県湘南中学校、山口高等学校を経て東京大学工学部に入学し、戦時最中の昭和19年9月に土木工学科を卒業された。卒業後直ちに東京第36部隊に入隊となったが、敗戦の年の9月に復員された。復員の翌月から東京大学の土質力学研究室に2年間勤務し、昭和22年に中央開発株式会社創立とともに同社に入社した。その後、昭和28年に土質基礎調査所を創立し、同31年に所長となったが、同39年に基礎地盤コンサルタンツ株式会社と社名変更し社長に就任した。その後、わが国の地盤コンサルタントの雄として活躍されたが、平成4年には基礎地盤コンサルタンツの会長に就任された。

この間、日本海外コンサルタンツ株式会社、海洋工業株式会社、株式会社森技術研究所、株式会社共栄基礎技術を設立し、その役員と社長に就任されている。また、国際建設技術協会理事、建設コンサルタンツ協会幹事などを歴任し、昭和60年以後は、日本コンサルティング・エンジニア協会の副会長、会長などを勤め、平成6年には同協会の名誉会員に選定されている。

このような業界でのご活躍とともに、森さんは学会活動にも熱心に参加され、昭和28年に現在の地盤工学会の前身である日本土質基礎工学委員会の委員に就任以来、昭和44年に至るまでほとんど連続的に土質工学会の理事会のメンバーであった。学会では森さんの土のサンプリングの研究と国際活動が特に有名であった。昭和55年から56年にかけては、国際土質基礎工学学会サンプリング委員会の委員長を勤められ、サンプリングの国際マニュアルの作成に当たった。国際活動においては森さんの日本人離れした語学力が遺憾なく発揮された。森さんはもともと英語と仏語が堪能であったが、アジア、アフリカ、中近東などの各国で100件を越すプロジェクトに従事された経験から、普通の日本人には理解できないような英語にも難なく対応されるのには驚嘆したものである。永年の土質工学会への貢献によって、平成5年には名誉会員に推挙されている。

実務でのご活躍とともに、森さんご自身は研究がお好きであった。土質基礎調査所を設立された後、カリフォルニア大学バークレー校に留学し、昭和30年には土木工学科および交通工学科の修士課程を終了している。ご自身の仕事の経験に基づいて、本学会の英文論文集や国際研究集会に20編を越す英文論文を発表しており、昭和56年には「洪積土の性質を原位置で測定するための装置と方法に関する研究」に対して、東京大学から工学博士の学位を授与されている。研究に対する熱意は亡くなる直前まで持ち続けられ、最後の論文は病床で森さんが口述しご子息の研二さんが仕上げたものである。

森さんは外柔内剛のお人柄で、ご自身の仕事と研究に対してはきわめて厳しかったが、私どもに対しては常に柔和で模範的な紳士であった。国際学会の裏方の仕事で何度かご一緒したが、時間に追いつめられ苦しい時でも、笑みを絶やさず頑張った森さんの顔が目に見える。50年に近い実務経験と研究実績をお持ちの森さんのご逝去は、わが国のみならず世界的にも大きい損失である。永年の暖かいお付き合いに感謝しご冥福を祈る次第である。

(中瀬明男 (株)日建設計)  
社団法人 地盤工学会

